

パネルディスカッション

日本再生への道
— 鍵となる人的資本の活用を考える —

《パネリスト（五十音順）》

島 津 裕 紀

（経済産業省 経済産業政策局
産業人材課長）

武 田 洋 子 CMA

（株式会社三菱総合研究所 執行役員 兼
研究理事 シンクタンク部門長）

中 畑 英 信

（株式会社日立製作所 執行役専務
CHRO 兼 コーポレートコミュニケー
ション責任者）

■司会者

三 瓶 裕 喜

（アストナリング・アドバイザー合同会社
代表）

目

次

1. 問題意識
2. 有価証券報告書の新たな開示項目
3. 開示の独自性と比較可能性

4. 人的資本の活用が成長ドライバーになるメカニズム
5. 証券アナリストに期待すること

1. 問題意識

(1) 人的資本経営の発信力と投資家の咀嚼力

三瓶 まず本日のテーマについて、問題意識などをうかがいたい。私が関心を持っているのは、人的資本経営についての企業の発信力と、それに対する投資家の「咀嚼力」だ。この咀嚼力というの

は、企業が発信した情報を投資家がどう使いこなすかということだ。その前に、なぜ「人材」ではなく「人的資本」という言葉が使われるようになったのかを整理したい。

人的資本は英語でHuman Capitalだが、Capitalの語源はラテン語のcaput（頭）だ。したがって、人的資本という財務的なイメージを持つ言葉より

（このパネルディスカッションは、2023年10月10日（第38回日本証券アナリスト大会開催日）に行われた。）